



高尾山のいきものたち

コゲラ

(キツツキ科)



つぶらな瞳の小さなキツツキ。背面は黒褐色に白い横斑、下面は白色に褐色の縦斑があり、頭は褐色で、目の上だけ白く、瞳が目立つ。

留鳥として平地や山地の林などに棲み、「ギィー」という声を出し、木や枝を移動する。木では、幹や枝に垂直に止まり、嘴で木をつつき、中に潜む虫を長い舌で引っ張り出して食べる。木の実なども食べることもある。幹に垂直に止まれるのは、足の指が前指と後指が共に2つあり、爪がカギ状に曲がっていて、しっかりと樹皮をつかめるから。

繁殖期は、5～6月で、枯れ木や枯れた枝に穴を開けて巣とし、雛を育てる。コゲラは、餌の虫が多く、巣とする枯れ木があるような豊かな林で命をつないでいる。

(写真・文 森林インストラクター 藤原 裕二)



NO.71

榎 (サワラ) (ヒノキ科)

サワラは本州は岩手県以南から九州熊本県に分布し、高尾山にもわずかですが植えられています。

葉などヒノキに良く似ていて、沢筋の湿潤なところに生育します。大きいものは高さ30m、直径60cmに達します。

名前の由来は、ヒノキに比べ、さわやかであることから、「さは(わ)ら」の名がついた説があります。

材はヒノキの赤身に対してサワラは黄色味がかかり、軽く、柔らかく、強い香りが無いのも特徴です。用途は外からの力に弱いところがあるので建築用構造材に向いていませんが、水に強い特性を生かして、桶、飯櫃、樽、壁板に利用されています。ヒノキの力強いイメージと比べサワラは素直でさわやかな妹分のような存在といわれています。

江戸時代木曾では「木曾五木」として尾張藩により保護されてきました。ヒノキと似ていますが、葉の裏を見ると気孔線がヒノキは「Y」の字で、サワラは「X」や「H」の字になっています。そこで、ヒノキやサワラには大変に失礼ですが、「卑猥(ひい)なヒノキ」、「H(エッチ)、サワラないで」で覚えるのだそうです。(皿)



葉裏

材質



森林教室

西東京市立 向台小学校

10月24日(月)に西東京市立向台小学校が森林教室にやってきました。当日は季節外れの寒気と降雨に見舞われてしまい、凍えるような状況でしたが、大人たちの心配をよそに子供たちは元気いっぱいの笑顔でやってきました。

生徒数が91名と大所帯のため、午前と午後で大きく2グループに分かれて①森林散策、②森林学習と丸太切りを交互に行う、通称「たすき掛け方式」をとっての開催となりました。森林散策では雨具を着用しての実施となりましたが、沢の流れの中で沢ガニを見つけたり、木の幹に張り付いているザトウムシを発見したりして、雨の中でも楽しい瞬間がありました。丸太切りでは苦労しながらも3~4枚の輪切りを切り取って喜ぶ姿を見ることが出来ました。

悪天候にもめげずに頑張った楽しい時間はあっという間に過ぎ去り、無事に帰路につくことが出来ました。(磯)



森林教室

西東京市立 谷戸小学校

10月25日(火)、西東京市立谷戸小学校5年生58名を高尾山日影沢園地に向かえて森林教室を行いました。前日から時折時雨れるような肌寒い天候で、当日も今年一番の冷え込みとなり、何時崩れるかと心配されるような曇り空の中での開催となりました。

午前中は、6班に分かれて森林観察を実施しました。林内に入ると一段と肌寒く感じましたが、途中の小川で沢ガニを探し、3匹も見つけると子供たちから歓声が上がっていました。その後も人工林や天然林の違い、針葉樹や広葉樹の林相の違いなどの説明に聞き入り、水を蓄え浄化する緑のダムとしての森林の機能などの説明の時も滴る湧き水に直接触れて確かめるなど興味津々で、寒さも忘れて森林観察を楽しんでいました。

午後は、森林学習と丸太切りで、2グループに分かれて交互に実施しました。森林学習は、管理棟の中で森林の役割や林業についてのお話し、丸太切りは、キャンプ場の広場でスタッフの指導を受けながら皆2~3枚程切っていました。管理棟での学習ではストーブを、外での丸太切りではドラム缶でたき火をするなど寒さ対策を施しての実施でしたが、寒さなど吹き飛ばす子供たちの元気な歓声がかたまる1日となりました。(瀬)



職場体験

八王子市立 横山中学校

10月26日(水)～28日(金)の3日間、八王子市立横山中学校の2年生3名の職場体験を受け入れました。

初日は、森林教室での丸太切り体験用の材料調達です。30年生のヒノキ人工林の中の劣勢木を選んでまずは伐倒。その後、枝を払い220cmに玉切りしてから林道まで肩で担いで搬出。生木なので相当な重量ですが、女子生徒3人のパワーに職員一同驚きです！「伐倒や運搬はとても大変だった」と言いつつも「良い体験ができた」と満足そうでした。

2日目は、遊歩道点検や森林観察をしながら山頂まで。途中ゴミ拾いもしてもらいましたが、多くの登山客の脇で黙々とゴミを探して拾う仕事に、生徒の皆さんはそれぞれ何かを感じた様子でした。

3日目は、小学校5年生を対象にした森林教室です。森林観察や丸太切りで児童たちに積極的に声かけをしている姿が印象的でしたが、コミュニケーションの難しさも体感したようでした。

3日間を終え「経験したことがないことばかりでびっくりした」「今回体験した色々なことをこれからの勉強や生活にも生かしていきたい」「できれば5日間センターに来たかった」などの嬉しい感想を聞くことができました。(枝)



重たい丸太も何のその



私が切り方の見本を見せるからね

森林教室

調布市立 滝坂小学校

10月28日(金)に調布市立滝坂小学校5年生60名の森林教室を行いました。昨年度予定していた森林教室がコロナ感染症のため中止となったため、今回は、当センターでの初めての森林教室となりました。

当日は、午前中に、全体を6班に分けて森林観察を行い、午後は、クラスごとに森林学習と丸太切りを交互に実施しました。森林観察では、慣れない山道を恐る恐る下ったり、見つけた沢ガニをうれしそうに手に取ったりしながら楽しんでいました。森林学習では、森林の働きや、林業について説明する職員の話真剣に聞いていました。丸太切りでは、ノコギリを上手に使い、もう1回もう1回と次々に挑戦していました。当日は、職場体験で当センターを訪れていた八王子市立横山中学校の女子生徒3名にも参加してもらい、児童たちと一緒に丸太切り等を体験しながら森林教室を手伝ってもらいました。年齢が近いこともあってか、児童たちから大人気で、楽しそうに話をしながら中学生にとっても楽しい1日となったようでした。

閉校式では、校長先生から「思っていた以上に素晴らしい体験をすることができました。ほかの学校にも是非紹介したい」と大変ありがたいお言葉をいただき、10月に予定した6回目の森林教室終了となりました。(谷)



森林教室

横浜市立 新田小学校

11月2日（水）に横浜市立新田小学校4年生の森林教室を実施しました。99人の大所帯で当施設では受け入れ困難なため、出前森林教室として「高尾の森わくわくビレッジ」にて実施しました。

はじめに森林学習として「地球温暖化を題材としたアニメ」と「森林・林業についてのパワーポイントの講義」を行いました。今回は4年生が対象ということで、「植物が行う光合成」や「日本の森林率は約67%」といった内容や表現がうまく伝わるのか不安もありましたが、子供たちは比較的スムーズにプログラムを受け入れている様子でした。次のプログラムは多くの子供たちが楽しみにしている「丸太切り」です。最初はなかなかうまく切ることが出来ない様子でしたが、2回目、3回目と経験を重ねるうちに、みるみる上手に切れるようになりました。

楽しい時間もあっという間に過ぎて、今回も無事にすべてのプログラムを終了することができました。

（磯）



森林教室

町田市立 小川小学校

11月4日（金）、町田市立小川小学校の児童76名と日影沢キャンプ場で森林教室を行いました。

当日はとても天気に恵まれ、紅葉も日差しに照らされとても鮮やかな様子でした。午前には森林散策、午後は森林学習と丸太切りを交互に行いました。

森林散策は一班12人ほどになってしまい、細い道ではなかなか説明がしにくい状況でしたが、とても楽しんでもらえた様です。とくに木から一度にたくさんの落ち葉が降ってくる光景に感動していました。

午前からお昼にかけては日差しが暖かいのですが「日影沢」という地形のとおり、14時くらいには日差しがあまり当たらなくなり、冷えてきます。

丸太切りの時には上着を着ての体験です。輪切った丸太を手袋を外して触れて、まだ乾いていない生の木材に驚いていました。また、つい最近まで山で生きていた事や自分たちのためにフォレストサポートの方々が伐ってきてくれたことにも驚いていました。

丸太切りだけでもたくさんの気づきや驚きがあり自分の手で切った輪切りをお土産にして大喜びでした。

（岩）



森林教室

西東京市立 向台小学校

11月7日（月）、西東京市立向台小学校5年生の第2陣の森林教室を実施しました。当日は、秋晴れの抜けるような青空が広がる絶好の森林教室日和で、10月24日に実施した第1陣と同じく生徒数93名の大所帯のため、午前と午後で大きく2グループに分かれて①森林観察、②森林学習と丸太切りを交互に行う、たすき掛け方式での実施となりました。

森林観察は、時計回りと反時計回りそれぞれ3班ずつに分かれての実施です。人工林と天然林、針葉樹と広葉樹の林相の違い、緑のダムとしての森林の機能の説明に耳を傾け、沢の水に触ったり沢ガニを見つけたり、ミヤマカタバミで十円玉をピカピカに磨きあげたりと、普段とは違う学習と遊びに夢中になっていました。

丸太切りでは、最初の1枚目を切るときはぎこちなかった児童も、2枚目、3枚目となると慣れてきて上手に鋸を扱っていました。輪切りの皮を剥くとききれいな木肌が出てくるので皮むきにも熱中するなど、天候にも恵まれ楽しい森林教室の1日となりました。



就業体験

東京都立 八王子拓真高等学校

11月9日（水）～11日（金）の3日間、東京都立八王子拓真高等学校の2年生3名の就業体験（インターンシップ）を受け入れました。

高校生の体験受入はあまり実績がないため、どのようなプログラムが良いのか少々迷いましたが、いつもどおりの森林教室、間伐（丸太切り材料採取）、遊歩道点検・整備、センサーカメラのカード交換・画像分析などを組み合わせて、3日間でできるだけ多様な業務を体験してもらうこととしました。

初日の森林教室では「小学生と仲良く森林観察ができて楽しかった」「丸太切りの指導は、自分にできるかなと少し焦ったけれど、小学生が喜んでくれたときは嬉しかった」との感想も。

2日目の遊歩道点検・整備では、いろはの森コース上の木製階段の視認板のペンキ塗り作業をしてもらいました。3人ともテキパキと作業を進め、また通りかかる登山者から「ご苦労さまです」と声をかけられるとにっこりして「ありがとうございます」と応えている姿が印象的でした。途中、これまで見たこともないような量のゴミ投棄現場に出会い、回収するかどうが一瞬迷いましたが、高校生たちは即断で回収を始め、職員が感心する場面も。

最終日に「意外と難しく大変だったけれど楽しかった」という間伐作業を行って3日間を終え、「将来は高尾森林ふれあい推進センターのような場所で仕事をしたいと思いました」と日記に書き留めてくれた生徒さんもいて嬉しい限りでした。頑張ってください！（枝）



森林教室

世田谷区立 松沢小学校

世田谷区立松沢小学校5年生144名の森林教室を、11月9日(水)と10日(木)に行いました。森林学習を行う部屋が狭いことや、駐車スペースが限られていること等から、2日に分けての実施となりましたが、1日目、2日目ともにビックリするくらい元気の良い挨拶でのスタートとなりました。両日とも天気にも恵まれ、午前中に森林観察を、午後は森林学習と丸太切りを実施しました。森林観察終了後は、観察で学んだことを座り込んでメモし、森林学習では、多くの質問が出され職員もタジタジ。丸太切りでは、慣れない作業に時折腰を伸ばしたりしながらも2枚、3枚と切り、年輪を数えたり、匂いをかいだりしながら楽しんでいました。それぞれの閉校式では、「地球温暖化はみんなが協力すればいつかは止められる。今日学んだことを生活の中で生かしていきたい」「丸太切りでノコギリの使い方を知ることができて良かった」「ゆっくりと丁寧に説明してくれて分かりやすかった。自然の大切さを知ることができた」「森林が地球温暖化を防ぐことがわかった。自分にできる取り組みをした」「山道は怖かったけど楽しくて、とても良い体験ができた」等々多くの感想が述べられ、職員やボランティアで協力いただいたフォレストサポートスタッフの顔には笑みがこぼれていました。2日間を通し、元気が良く礼儀正しい児童ばかりで気持ちの良い森林教室となりました。(谷)



森林教室

八王子市立 由木東小学校

11月15日に八王子市立由木東小学校3年生が森林教室にやってきました。約150名の大所帯ということもあり、現在の拠点である日影沢キャンプ場では実施困難ということもあって、事務所の庭での丸太切りと、お隣の599ミュージアムでの森林学習の2本立てのプログラムとなりました。

3年生ということもあり、丸太切りはいつもより多少細めの間伐材を使用しました。また森林学習の中で出てくる「森林の割合」「光合成」「地球温暖化の元となっている二酸化炭素の増大」についての説明は、まだ未学習なので苦労しましたが子供たちは真剣に聞いてくれました。

楽しい時間はあっという間に過ぎて閉会式となりました。(磯)



編集後記



センリョウ

Forest通信 NO406

発行：林野庁関東森林管理局
高尾森林ふれあい推進センター



ご意見・ご要望・イベントのお申込み・お問い合わせ先
高尾森林ふれあい推進センター
〒193-0844 東京都八王子市高尾町2438-1
TEL 042-663-6689 FAX 042-663-7229
<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/takao/index.html>